

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

経営者への活きた言葉

税理士法人 優和

TEL 03-3455-6666

FAX 03-3455-7777

経営者への活きた言葉

無理せず、闇雲に規模を追わない 横山 清（アークス社長）

1. 食品スーパーに携わるようになって60数年。北海道から東北、北関東で地域密着の店舗展開を進め、売上高は5700億円を超えました。「どういう会社が生き残ったのだと思いますか」と尋ねられることがあります。やはり地域の特性をしっかりと捉えることではないでしょうか。
2. 振り返ると、この業界には天才的だと思える経営者が何人もいました。行動の派手な経営者は目立ちますからその分、成長スピードが速いと思われがちです。しかし、こうした会社は結局、今となってはほとんど残っていません。では、どんな食品スーパーが残っているかと考えると、それはやはり地域の特性を捉えながら忍耐強く取り組んできたところだと実感しています。
3. 会社が小さかった頃、大手の傘下に入ろうかと迷ったことが何回かあります。最終的に加わらなかったのは「本部からの指示でそれまでの良さがなくなり、すべてを失う」と思ったからです。その代わり、成長とともに各地の有力スーパーが仲間入りするようになりました。私は「八ヶ岳連峰経営」を掲げています。これは、新たに加わった食品スーパーはそれまでの屋号、売り場づくりを続けています。闇雲に規模を追うのではなく、各地の勝ち組、つまり生き残れる基礎を持つ仲間と手を組みます。

(参考:「日経ビジネス」2023年2月27日号)

経営者のための理念・哲学

教育に二つの背骨がある（吉田松陰）

上田俊成（松蔭神社名誉宮司）

1. 吉田松陰の教育は、志を立てるという立志の教育。志について17歳の時にこう述べています。「道の精なると精ならざると、業の成ると成らざるとは、志の立つと立たざるとに在るのみ」。何事も成就するかどうかは志如何だと。
2. 松下村塾の教育には二つの背骨となる考え方があります。一つが「学は、人たる所以を学ぶなり」。学問とは人としていかに生きるべきかを互いに学び合うことであると。もう一つが「国の最も大なりとするところのものは、華夷の弁なり」。国にとって最も大切なことは外国との違いを明確にし、我が国が我が国である所以を忘れないこと。突き詰めて言うと、日本とは何か、日本人としてどう生きるべきかと私は解釈しています。

(参考:「致知」2023年5月号)

人事・労務について

26年までに平均基本給を倍増（旭酒造）

1. 難しいとされる中小企業の賃上げ。その壁を打ち破ったのが山口県の日本酒メーカー・旭酒造だ。2022年、製造部の大卒初任給を従来の21万円から30万円に引き上げた。社員数約250人、資本金1000万円という地方の中小企業だ。既存の社員についても、製造部を対象に基本給を増額。26年までに同部所属社員の平均基本給を倍増させる。
2. 当初はジョブ型や成果報酬型の制度導入を検討したが、最終的には現行の年功序列制度を据え置いた。松井社長は、「酒造は一部のコースによってではなく、皆が少しずつ改善して品質を上げていく。挑戦した結果、失敗したとしても、給与は下らないという心理的安全性を担保したかった」と語る。

(参考:「週刊東洋経済」2023年3月11日号)

古典に学ぶ

清らかな心を持つ

1. あなたは、自分の思い通りにならないことを、世の中や人のせいにしていませんか?「自分が活躍できないのは〇〇のせいだ」「〇〇さえなければ、うまく行くのに」…。嘆くのは簡単です。しかし、空海はこのように説いています。
2. 蓮は泥の中に育ちながら、その色に染まらず美しい花を咲かせている。私たち人間も、環境に左右されない清らかな心を持ち、悟りへと至る可能性を持っていることがわかる。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)